

ホオジロ (*Emberiza cioides*)

識別マニュアル

平成23年10月

環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

## 目 次

I	はじめに	1
II	ホオジロ <i>Emberiza cioides</i> の分布と亜種	1
III	羽色による日本産と外国産のホオジロ <i>Emberiza cioides</i> の識別	4
IV	測定値による日本産と外国産のホオジロの識別	5
V	参考文献	16

### 図 1 ホオジロ *Emberiza cioides* の分布

#### 写真

##### 亜種ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis*

雄・成鳥冬羽 ♂ Adult Winter, 雄・第 1 回冬羽 ♂ First Winter  
雄・成鳥夏羽 ♂ Adult Summer, 雄・第 1 回夏羽 ♂ First Summer  
雄・第 1 回夏羽 ♂ First Summer  
雌・成鳥冬羽 ♀ Adult Winter, 雌・第 1 回冬羽 ♀ First Winter  
雌・第 1 回夏羽 ♀ First Summer

##### 亜種チョウセンホオジロ *Emberiza cioides castaneiceps*

雄・成鳥冬羽 ♂ Adult Winter, 雄・成鳥冬羽 ♂ Adult Winter  
雄・成鳥冬羽 ♂ Adult Winter, 雄・第 1 回冬羽 ♂ First Winter  
雌・第 1 回冬羽 ♀ First Winter, 雄・成鳥夏羽 ♂ Adult Winter  
雄・成鳥夏羽 ♂ Adult Winter

##### 亜種シベリアホオジロ *Emberiza cioides weigoldi*

雄・成鳥夏羽 ♂ Adult Winter, 雄・第 1 回夏羽 ♂ First Summer  
雌・成鳥夏羽 ♀ Adult Winter, 雌・第 1 回夏羽 ♀ First Summer

##### 亜種モウコホオジロ *Emberiza cioides cioides*

雄・第 1 回夏羽 ♂ First Summer, 雄・第 1 回夏羽 ♂ First Summer

### 表 1 日本産と外国産のホオジロ *Emberiza cioides* の各部位の測定値

## I はじめに

我が国では、野鳥は許可なく捕獲することも飼養することも法律で禁じられている。愛玩飼養目的の捕獲許可対象鳥類は、過去から順次減少し、近年では1999年からメジロとホオジロの2種のみ一世帯1羽に限り、2007年からは、メジロ1種に限って一世帯1羽のみが認められていたところである。その後、本年9月に行った「鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指針」の改正において、愛玩飼養のための捕獲については、原則として許可しないことと明記された。

しかし、国内で違法に捕獲した鳥類を輸入した鳥類と偽って愛玩飼養しているケースはいまでも後を絶たない。とくにホオジロは、メジロに次いで多くの日本産の個体が国内で不法に捕獲され輸入されたものとして飼養され、雄鳥の囀りを競う鳴き合わせ会も行なわれている。このような問題の解決には、輸入された外国産の鳥と国内産の鳥を識別することが不可欠であり、外国産と日本産の鳥を識別する方法が確立できれば、違法捕獲や違法飼育を防止する有効な対策となる。

環境省自然環境局野生生物課では平成10・13年に「メジロ識別マニュアル（1998, 2001）」、平成12年に「ウグイス識別マニュアル（2000）」、平成20年には「オオタカ識別マニュアル（2008）」、および平成21年には「オオルリ・キビタキの識別マニュアル（2009）」を発行した。これらの識別マニュアルによって外国産と国内産を識別できるようになり、各都道府県等が違法飼養の取締りを実施する際に効果をあげているところである。

本マニュアルは、上記の各マニュアルに次いで、ホオジロについて日本産と外国産を識別するマニュアルとして作成したものである。

## II ホオジロ *Emberiza cioides* の分布と亜種

ホオジロ *Emberiza cioides* は現在、5亜種に分類されており、アジア東部の温帯地方、ロシアのアムール、ウスリー、沿海州、モンゴル、中国の北部と東部、北朝鮮、韓国、済州島、日本、南千島に分布し、冬期には北方の個体群の一部は南方に渡る。

南千島を含む日本国内には亜種ホオジロ *E. c. ciopsis* の1亜種だけが分布し、国外には4亜種が分布する。日本の亜種ホオジロのうち北方で繁殖する個体群の一部は南方に渡り越冬することがあり、北海道苫小牧市から鹿児島県内之浦町に渡った例が知られている。しかし、日本国内から国外に渡った例は、従来、知られていない。

ホオジロは主に開けた丘陵の藪や疎林に生息するが、中国東部の亜種シベリアホオジロ *E. c. weigoldi* は斜面に多く、モンゴルの基亜種モウコホオジロ *E. c. cioides* は、草

原の岩場、谷沿いの岩場や崖地に生息する。

各亜種の分布は、以下の通りである(図1 ホオジロ *Emberiza cioides* の分布 参照)。

#### ***Emberiza cioides ciopsis* 亜種ホオジロ**

北海道、南千島(国後島)、本州、佐渡、隠岐、四国、九州、対馬、壱岐、五島列島、屋久島、種子島、伊豆諸島で繁殖し、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、およびサハリン南部からも記録がある。以前は対馬と壱岐および韓国の済州島のホオジロは、亜種イイジマホオジロ *E. c. ijimae* という別亜種にされていたが、現在では対馬と壱岐の亜種イイジマホオジロは亜種ホオジロに含められ、済州島のホオジロは亜種ホオジロまたは亜種チョウセンホオジロ *E. c. castaneiceps* に含められている。

なお、屋久島のホオジロと八丈島のホオジロは、それぞれ、亜種ヤクシマホオジロ *E. c. neglecta* と亜種タメトモホオジロ *E. c. tametomo* という別亜種にされたことがあり、北海道と国後島のホオジロは、亜種キタホオジロ *E. c. shiretokoensis*、伊豆大島のホオジロは、亜種ナミエホオジロ *E. c. namiyei* という別亜種にされたことがある。しかし、これらの4亜種は現在は、認められていない。

#### ***Emberiza cioides cioides* 亜種モウコホオジロ (新称)**

ロシアの西シベリア、アルタイからトランスバイカリア、アムール西部、モンゴル、中国の青海省に分布し、やや南方に渡り越冬するが、モンゴルでの越冬記録もある。

#### ***Emberiza cioides weigoldi* 亜種シベリアホオジロ**

ロシアのアムール西部からウスリー、沿海州、中国東部の河北省、北朝鮮北部に分布し、冬期は中国南東部、韓国中部まで渡る。

#### ***Emberiza cioides tarbagataica* 亜種ニシホオジロ (新称)**

カザフスタン共和国東部と中国北西部のタルバガタイ山脈、ロシア南部のアルタイ山脈南西部、およびキルギス共和国の天山山脈にかけて分布し、南方に渡り越冬する。モンゴル北部から冬期の記録がある。

#### ***Emberiza cioides castaneiceps* 亜種チョウセンホオジロ**

中国の河北省南部から中国南東部の広東省北部、および朝鮮半島と済州島に分布し、北方の個体群は冬期はやや南方に渡る。済州島に分布するホオジロの亜種は、朝鮮半島本土の亜種とは異なる亜種イイジマホオジロ *E. c. ijimae* とされたことがあるが、現在では亜種ホオジロまたは亜種チョウセンホオジロとして扱われている。

このホオジロ識別マニュアル作成のための調査では5亜種のうち、亜種ニシホオジロの調査は行なわれていない。この亜種はホオジロの5亜種の中で、最も淡色とされる。



図1 ホオジロ *Emberiza cioides* の分布

### III 羽色による日本産と外国産のホオジロ *Emberiza cioides* の識別

ホオジロは、主に耳羽・頭上の縦斑・頭上の地色・背の縦斑・背の地色・胸帯の色が亜種によって異なることから、これらの部位に注目することにより亜種を識別することができる。

夏羽の雄では、耳羽が黒いのは日本産の亜種ホオジロ *E. c. ciopsis* だけである。したがって、夏羽の雄であれば、耳羽の色が黒色であるか、または赤褐色であるかを調べることにより日本産のホオジロである亜種ホオジロか外国産のホオジロかを識別することができる。亜種ホオジロも冬羽の雄は、成鳥、第1回冬羽とも新しい冬羽では耳羽の先端は褐色を帯びており、羽縁の摩耗により徐々に黒色となるので注意が必要である。なお、宍岐・対馬産のホオジロの雄は、済州島産のホオジロに比較し頭上と耳羽は、より暗色で黒味が強い。全体の羽色は亜種ホオジロに類似し、黒色を帯びた赤褐色の胸帯がある個体もある。

亜種ホオジロの雌も耳羽の色は、ホオジロの5亜種のうち最も暗色であるが、羽色による雌のホオジロの亜種間の識別は雄より難しい。

頭上の黒い縦斑は、亜種ホオジロでは他の4亜種のものより太く顕著であり、冬羽だけでなく、夏羽でも明瞭である。他の4亜種では頭上の黒い縦斑は細く不明瞭であり、夏羽では基亜種モウコホオジロと亜種チョウセンホオジロでは、ほとんど消失する。

頭上の地色は亜種ホオジロの冬羽では淡い赤褐色で、他の亜種より赤褐色みが少ない。背の黒い縦斑も亜種ホオジロでは、他の4亜種のものより太く顕著であり、冬羽だけでなく、夏羽でも明瞭である。他の4亜種では頭上と背の黒い縦斑はやや細く、夏羽の基亜種モウコホオジロと亜種チョウセンホオジロでは、背の黒い縦斑は不明瞭となる。背の地色は、とくに夏羽では基亜種モウコホオジロと亜種チョウセンホオジロでは赤褐色味が強く、亜種シベリアホオジロでは淡い褐色である。亜種シベリアホオジロは個体差が大きく、亜種チョウセンホオジロに似るが、亜種チョウセンホオジロの雄・夏羽の白い眉斑と頭上との境界は、細く黒い個体が多い。

大陸の4亜種の雄の胸には亜種ニシホオジロを含み、とくに夏羽では下胸に赤褐色の胸帯が顕著であるが、この胸帯の太さには個体差が大きい。亜種ホオジロの雄では、下胸に普通は赤褐色ではなく、黒斑のある個体があり黒斑の多い個体は黒斑が帯状となる。また、外国産のホオジロの小雨覆は、やや褐色を帯びた灰色である個体が多い。

尾羽は各亜種とも第1回冬羽までは幼羽が一部または、すべて残っている個体もいるが、すべての尾羽を換羽する個体もある。幼羽の尾羽は先が尖り磨耗しやすく、第1回夏羽では中央尾羽に幼羽が残っている個体が多い。中央尾羽が幼羽である第1回夏羽の個体では、中央尾羽は磨耗が著しい。

#### IV 測定値による日本産と外国産のホオジロの識別

日本産の亜種ホオジロと、外国産の亜種モウコホオジロ、亜種シベリアホオジロ、亜種チョウセンホオジロの3亜種の各部位の測定値を、雄生体について比較した。結果は以下の通りである。

有意差は認められなかったものの、自然翼長は、平均値±標準偏差が亜種ホオジロでは、 $74.1 \pm 1.94$  (n=75, 最小値 69.8-最大値 78.5), 亜種シベリアホオジロは、 $77.2 \pm 2.00$  (n=8, 最小値 73.3-最大値 79.6), 亜種チョウセンホオジロは、 $73.0 \pm 2.05$  (n=15, 最小値 69.1-最大値 77.3)であった。亜種モウコホオジロは亜種シベリアホオジロより大きく、 $77.6 \pm 4.72$  (n=3, 最小値 74.0-最大値 84.3)であった。

日本産と外国産の比較で特に有意な差が認められた部位は、露出嘴峰長、全頭長、口角長、跗蹠長および体重であった。これら5部位の測定値は、羽色から亜種を識別する際の補助として有効である。5部位の測定値は以下の通りで、いずれも Mann-Whitney の U 検定により、日本産の亜種ホオジロが、外国産の3亜種よりも有意に大きいことを示していた(表1参照)。

露出嘴峰長は、日本産の亜種ホオジロが  $11.7 \pm 0.62$  (n=75, 最小値 10.1-最大値 13.2, レンジ 3.1), 外国産が  $10.8 \pm 0.43$  (n=16, 最小値 10.2-最大値 11.7, レンジ 1.5)である (U=726.0,  $p < 0.0001$ )。

全頭長は、日本産が  $30.7 \pm 0.77$  (n=74, 最小値 27.4-最大値 32.4, レンジ 5), 外国産が  $29.2 \pm 0.62$  (n=16, 最小値 28.0-最大値 30.5, レンジ 2.5) である (U=153.0,  $p < 0.0001$ )。

口角長は、日本産が  $13.5 \pm 0.79$  (n=66, 最小値 10.4-最大値 15.7, レンジ 5.3), 外国産が  $13.1 \pm 1.68$  (n=16, 最小値 12.0-最大値 19.4, レンジ 7.4) である (U=377.0,  $p < 0.0001$ )。

跗蹠長は、 $19.7 \pm 0.71$  (n=75, 最小値 16.3-最大値 21.0, レンジ 4.7), 外国産が  $19.0 \pm 0.51$  (n=16, 最小値 17.8-最大値 20.1, レンジ 2.3) である (U=616.0,  $p < 0.0001$ )。

体重は、日本産が  $21.7 \pm 1.36$  (n=74, 最小値 19.7-最大値 27.0, レンジ 7.3), 外国産が  $20.4 \pm 1.05$  (n=16, 最小値 19.0-最大値 22.9, レンジ 3.9) である (U=471.7,  $p < 0.001$ )。

表1 日本産と外国産のホオジロ *Emberiza cioides* の各部位の測定値

	露出嘴峰長 Exp. Cul.	全頭長 Total Head	口角長 Gape	跗蹠長 Tarsus	体重 Weight
日本産 Japan	$11.7 \pm 0.62$ (10.1 - 13.2, n=75)	$30.7 \pm 0.77$ (27.4 - 32.4, n=74)	$13.5 \pm 0.79$ (10.4 - 15.7, n=66)	$19.7 \pm 0.71$ (16.3 - 21.0, n=75)	$21.7 \pm 1.36$ (19.7 - 27.0, n=74)
外国産 Overseas	$10.8 \pm 0.43$ (10.2 - 11.7, n=16)	$29.2 \pm 0.62$ (28.0 - 30.5, n=16)	$13.1 \pm 1.68$ (12.0 - 19.4, n=16)	$19.0 \pm 0.51$ (17.8 - 20.1, n=16)	$20.4 \pm 1.05$ (19.0 - 22.9, n=16)

注: 平均値±標準偏差および(最小値-最大値, n=個体数)

単位: mm, 体重 g

亜種ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis*



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter 2月 February

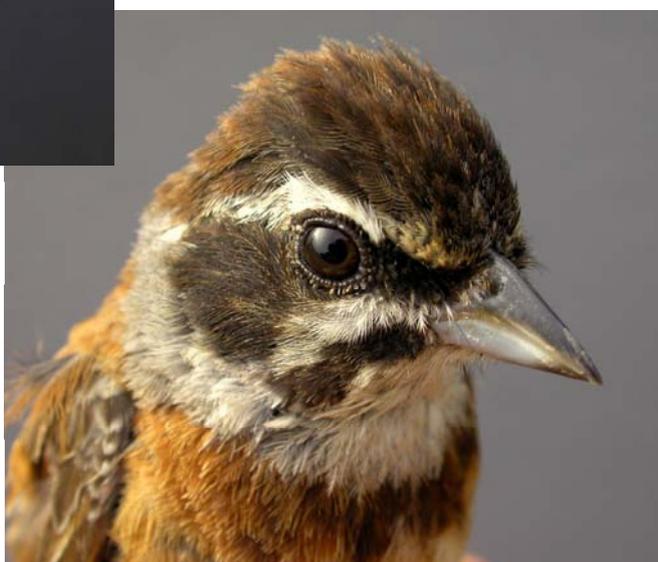


雄・第1回 冬羽 Male・First Winter 2月 February

亜種ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis*



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer  
7月 July



雄・第1回夏羽 Male・First Summer  
対馬 Tsushima Island 9月 September



雄・第1回夏羽 Male・First Summer 屋久島 Yaku Island 6月 June

亜種ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis*



雌・成鳥冬羽 Female・Adult Winter 2月 February



雌・第1回冬羽 Female・First Winter 2月 February

亜種ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis*



雌・第1回夏羽 Female・First Summer 老岐 Iki Island 9月 September

亜種チョウセンホオジロ *Emberiza cioides castaneiceps*



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter 济州島 Cheju Island 12月 December

亜種チョウセンホオジロ *Emberiza cioides castaneiceps*



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter 濟州島 Cheju Island 12月 December



雄・成鳥冬羽 Male・Adult Winter 濟州島 Cheju Island 12月 December

亜種チョウセンホオジロ *Emberiza cioides castaneiceps*



雄・第1回冬羽 Male・First Winter 濟州島 Cheju Island 12月 December



雌・第1回冬羽 Female・First Winter 濟州島 Cheju Island 12月 December

亜種チョウセンホオジロ *Emberiza cioides castaneiceps*



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer 濟州島 Cheju Island 5月 May



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer 濟州島 Cheju Island 5月 May

亜種シベリアホオジロ *Emberiza cioides weigoldi*



雄・成鳥夏羽 Male・Adult Summer 中国河北省 Hebei, China 4月 April



雄・第1回夏羽 Male・First Summer 中国河北省 Hebei, China 4月 April

亜種シベリアホオジロ *Emberiza cioides weigoldi*



雌・成鳥夏羽 Female・Adult Summer 中国河北省 Hebei, China 4月 April



雌・第1回夏羽 Female・First Summer 中国河北省 Hebei, China 4月 April

亜種モウコホオジロ *Emberiza cioides cioides*



雄・第1回夏羽 Male・First Summer モンゴル Mongolia 7月 July



雄・第1回夏羽 Male・First Summer モンゴル Mongolia 7月 July

## V 参考文献

- Byers, C., U. Olsson, and J. Curson 1995. *Buntings and Sparrows, A Guide to the Buntings and North American Sparrows*. Pica Press, Sussex.
- Dement'ev, G.P. and Gladkov, N.A. (Eds.) 1954. *Birds of the Soviet Union*, Vol. 5. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem. (Translated from Russian in 1970)
- Dickinson, E.C. (Editor) 2003. *The Howard & Moore Complete Checklist of the Birds of the World*. 3rd Edition. Christopher Helm, London.
- Kuroda, Nagamichi 1923. Descriptions of new subspecies from Japan. *Bull. B.O.C.* 43 (275): 86 - 91.
- 黒田長禮 1933. 鳥類原色大圖説. 第1巻. 修教社書院, 東京.
- 三島冬嗣 1959. 北海道産鳥類の夏季の小採集品. *鳥獣集報* 17(1): 1 - 6.
- 初山徳太郎 1923a. 伊豆大島に於ける鳥類, 附 2新亜種の記載. *鳥* 3 (14): 196 - 213.
- 初山徳太郎 1923b. 伊豆諸島産一新鳥類の新亜種. *動物学雑誌* 35 (411): 400 - 415.
- 日本鳥学会 (編) 1932. 日本鳥類目録 改訂第2版. 日本鳥学会, 東京.
- 日本鳥学会 (編) 1942. 日本鳥類目録 改訂第3版. 日本鳥学会, 東京.
- 日本鳥学会 (編) 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会, 帯広.
- Paynter, R. A., Jr. and Storer, R. W. 1970. *Check-List of Birds of the World*, Vol.13. Museum of Comparative Zoology, Cambridge, Massachusetts.
- Steineger, L. 1893. Notes on a third installment of Japanese birds in the Science College Museum, Tokyo, Japan, with description of new species. *Proc. U. S. Nat. Mus.* 16 (957): 615 - 638.
- Vaurie, C. 1956. Systematic notes on Palearctic birds. No. 23. Fringillidae: the genera *Emberiza*, *Calcarius*, and *Plectrophenax*. *Amer. Mus. Novitates* no.1805: 1 - 27.
- Vaurie, C. 1959. *The Birds of the Palearctic Fauna. A Systematic Reference, Order Passeriformes*. H. F. & G. Witherby, London.
- 山階鳥類研究所 1997. 渡り鳥アトラス. 鳥類回収記録解析報告書, スズメ目編 1961 - 1995年. 山階鳥類研究所, 我孫子.
- 山階芳麿 1934. 日本の鳥類と其生態. 第1巻. 梓書房, 東京.

ホオジロ *Emberiza cioides* 識別マニュアル

※平成 22 年度鳥類識別（ホオジロ）マニュアル作成業務報告資料  
（平成 23 年 3 月）を基に作成

発行者：環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

業務請負者：財団法人 山階鳥類研究所

